261099

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2024年10月18日まで（2014年12月11日設定）	
運用方針	米国高格付債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国国債、連邦政府抵当金庫（ジニーメイ）の保証が付されている米国不動産担保証券、およびその他これらと同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券（米国政府機関債および国際機関債ならびに米国不動産担保証券をいいます。）に投資を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。デュレーション調整等のため、先物取引等を利用し債券の実質投資比率が100%を超える場合があります。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。	
主要運用対象	ベビーファンド	米国高格付債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	米国国債および米国国債と同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第２計算期末までの間は、収益の分配は行いません。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）

愛称：ＵＳトップ ヘッジあり

第11期（決算日：2015年11月18日）
第12期（決算日：2015年12月18日）
第13期（決算日：2016年１月18日）
第14期（決算日：2016年２月18日）
第15期（決算日：2016年３月18日）
第16期（決算日：2016年４月18日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）（愛称：ＵＳトップ ヘッジあり）」は、去る４月18日に第16期の決算を行いましたので、法令に基づいて第11期～第16期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

MUFG
三菱UFJ国際投信
東京都千代田区有楽町一丁目12番１号
URL:http://www.am.mufg.jp/

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先
お客さま専用フリーダイヤル TEL.0120-151034
（9:00～17:00、土・日・祝日・12月31日～１月３日を除く）
お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆目 次

三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド<為替ヘッジあり>（毎月決算型）のご報告

◇設定以来の運用実績 …… 1
◇当作成期中の基準価額と市況等の推移 …… 2
◇運用経過 …… 3
◇今後の運用方針 …… 8
◇１万口当たりの費用明細 …… 9
◇売買及び取引の状況 …… 9
◇利害関係人との取引状況等 …… 10
◇自社による当ファンドの設定・解約状況 …… 10
◇組入資産の明細 …… 10
◇投資信託財産の構成 …… 11
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況 …… 11
◇損益の状況 …… 12
◇分配金のお知らせ …… 13
◇お知らせ …… 13

マザーファンドのご報告

◇米国高格付債券マザーファンド …… 14

本資料の表記にあたって

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
・－印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			（参考指数）シティ米国債インデックス（円ヘッジ・円ベース）		債券組入比率	債券先物比率	純資産総額
	（分配落）	税込み分配金	期中騰落率		期中騰落率			
（設定日）	円	円	%		%	%	%	百万円
2014年12月11日	10,000	－	－	10,000	－	－	－	990
1期(2015年1月19日)	10,111	－	1.1	10,187	1.9	87.1	－	1,089
2期(2015年2月18日)	9,924	－	△1.8	10,023	△1.6	87.9	－	1,182
3期(2015年3月18日)	9,979	10	0.7	10,082	0.6	90.2	－	1,222
4期(2015年4月20日)	10,097	10	1.3	10,194	1.1	94.3	－	1,240
5期(2015年5月18日)	9,899	10	△1.9	10,053	△1.4	93.9	－	1,218
6期(2015年6月18日)	9,772	10	△1.2	9,984	△0.7	93.0	－	1,185
7期(2015年7月21日)	9,737	10	△0.3	9,975	△0.1	95.5	－	1,180
8期(2015年8月18日)	9,844	10	1.2	10,099	1.2	93.1	－	1,187
9期(2015年9月18日)	9,786	10	△0.5	10,062	△0.4	94.1	－	1,177
10期(2015年10月19日)	9,887	10	1.1	10,169	1.1	96.2	－	1,184
11期(2015年11月18日)	9,729	10	△1.5	10,041	△1.3	93.8	－	1,156
12期(2015年12月18日)	9,758	10	0.4	10,058	0.2	94.0	－	1,139
13期(2016年1月18日)	9,838	10	0.9	10,174	1.2	91.1	－	1,149
14期(2016年2月18日)	9,900	10	0.7	10,290	1.1	94.2	－	1,145
15期(2016年3月18日)	9,870	10	△0.2	10,253	△0.4	92.0	－	1,136
16期(2016年4月18日)	9,931	10	0.7	10,347	0.9	92.3	－	1,142

（注）設定日の基準価額は、設定時の価額です。
（注）信託約款の規定にしたがい、第２期までの収益分配は行っていません。
（注）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注）基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。
（注）シティ米国債インデックス（円ヘッジ・円ベース）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、米国の国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。
（注）外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。
（注）当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。
（注）「債券先物比率」は買建比率－売建比率。
（注）設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年月日	基準価額		（参考指数）シティ米国債インデックス（円ヘッジ・円ベース）		債券組入比率	債券先物比率
			騰落率		騰落率		
	（期首）	円	%		%	%	%
	2015年10月19日	9,887	－	10,169	－	96.2	－
第11期	10月末	9,800	△0.9	10,095	△0.7	94.8	－
	（期末）						
	2015年11月18日	9,739	△1.5	10,041	△1.3	93.8	－
	（期首）						
	2015年11月18日	9,729	－	10,041	－	93.8	－
第12期	11月末	9,753	0.2	10,059	0.2	92.9	－
	（期末）						
	2015年12月18日	9,768	0.4	10,058	0.2	94.0	－
	（期首）						
	2015年12月18日	9,758	－	10,058	－	94.0	－
第13期	12月末	9,705	△0.5	10,015	△0.4	91.6	－
	（期末）						
	2016年１月18日	9,848	0.9	10,174	1.2	91.1	－
	（期首）						
	2016年１月18日	9,838	－	10,174	－	91.1	－
第14期	１月末	9,869	0.3	10,204	0.3	94.3	－
	（期末）						
	2016年２月18日	9,910	0.7	10,290	1.1	94.2	－
	（期首）						
	2016年２月18日	9,900	－	10,290	－	94.2	－
第15期	２月末	9,933	0.3	10,309	0.2	94.4	－
	（期末）						
	2016年３月18日	9,880	△0.2	10,253	△0.4	92.0	－
	（期首）						
	2016年３月18日	9,870	－	10,253	－	92.0	－
第16期	３月末	9,901	0.3	10,299	0.4	93.8	－
	（期末）						
	2016年４月18日	9,941	0.7	10,347	0.9	92.3	－

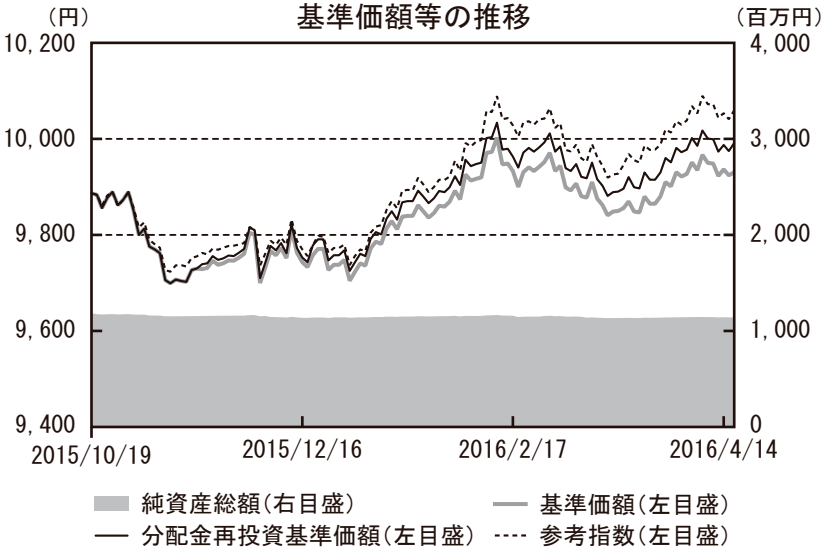
（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。
（注）当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。
（注）「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について

（第11期～第16期：2015/10/20～2016/４/18）

基準価額の動き	基準価額は当作成期首に比べ1.1%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



第11期首　：　9,887円
第16期末　：　9,931円
（既払分配金　　60円）
騰落率　　：　　1.1%
（分配金再投資ベース）

・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
・実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

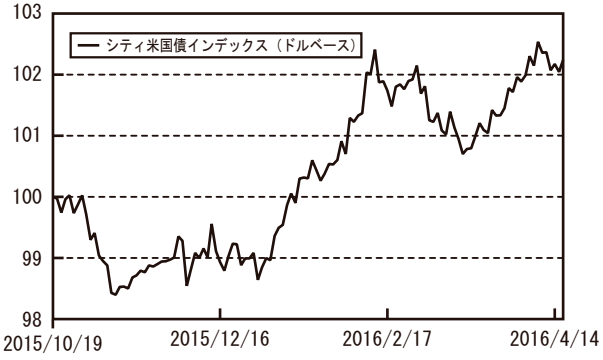
上昇要因	米国長期金利が低下したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

投資環境について

（第11期～第16期：2015/10/20～2016/４/18）

債券市況の推移

（当作成期首を100として指数化）



◎債券市況

・2015年12月下旬にかけては、12月中旬に開催されたＦＯＭＣ（米連邦公開市場委員会）で利上げが決定されたことなどから米国長期金利は中短期ゾーン主導で上昇しました。その後、2016年１月以降は、世界的に株式市況が下落したことや３月に開催されたＦＯＭＣにおいて、今後の政策金利引き上げを含む金融正常化を慎重に進める方針が示唆されたことなどから長期金利は低下しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

＜三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）＞

・当ファンドは米国高格付債券マザーファンド受益証券を通じて、米国国債および米国国債と同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券に投資し、為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。

・当作成期は、米国長期金利が低下したことなどがプラス要因となり、基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。なお、為替市況が、当作成期首に比べ、円高・ドル安となりましたが、為替ヘッジを行っていたため、円に対するドルの下落分を回避することができました。

＜米国高格付債券マザーファンド＞

・基準価額は当作成期首に比べ7.3%の下落となりました。

・当ファンドは、米国国債および米国国債と同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券を主要投資対象とし、安定した利子収入の確保と信託財産の着実な成長をめざし、運用を行いました。

◎組入比率

・当作成期を通じて高位組み入れを維持しました。

◎種別構成

・当作成期を通じて、ＭＢＳ（不動産担保証券）と国債を組み合わせて運用を行い、ファンドの利回り向上を狙い、国債に対するスプレッド（利回り格差）の厚いＭＢＳの組入比率を参考指数比多めとし、概ね40%程度を維持しました。なお、組み入れているＭＢＳは全て連邦政府抵当金庫（ジニーメイ）の保証が付されている米国不動産担保証券です。

◎デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

・新興国を中心とした海外の景気減速懸念や、国内のインフレ動向が低位で落ち着いていることなどから、政策金利の引き上げを含む金融正常化の道のりに関しては不透明感が残り、それが金利上昇の抑制要因となると判断し、デュレーションは長めを基本に調整しましたが、2016年１月の金利が低下した局面で中立に変更し、当作成期末まで維持しました。

・前記の運用の結果、米国長期金利が低下したことなどはプラス要因となりましたが、米ドルが円に対して下落したことなどによるマイナス要因が上回り、基準価額は下落しました。

（ご参考）

利回り・デュレーション

作成期首（2015年10月19日）

最終利回り	1.8%
直接利回り	2.4%
デュレーション	6.2年

・数値は債券現物部分について計算しています。
・最終利回りとは、個別債券等の複利利回りを加重平均したものです。
・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
・最終利回り、デュレーションは、期限前償還を考慮し算出しております。

作成期末（2016年４月18日）

最終利回り	1.6%
直接利回り	2.8%
デュレーション	6.4年

・数値は債券現物部分について計算しています。
・最終利回りとは、個別債券等の複利利回りを加重平均したものです。
・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
・最終利回り、デュレーションは、期限前償還を考慮し算出しております。

（ご参考）

種類別組入比率

作成期首（2015年10月19日）

国債	60.1%
ＭＢＳ	39.9%

（注）比率は現物債券評価額に対する割合です。

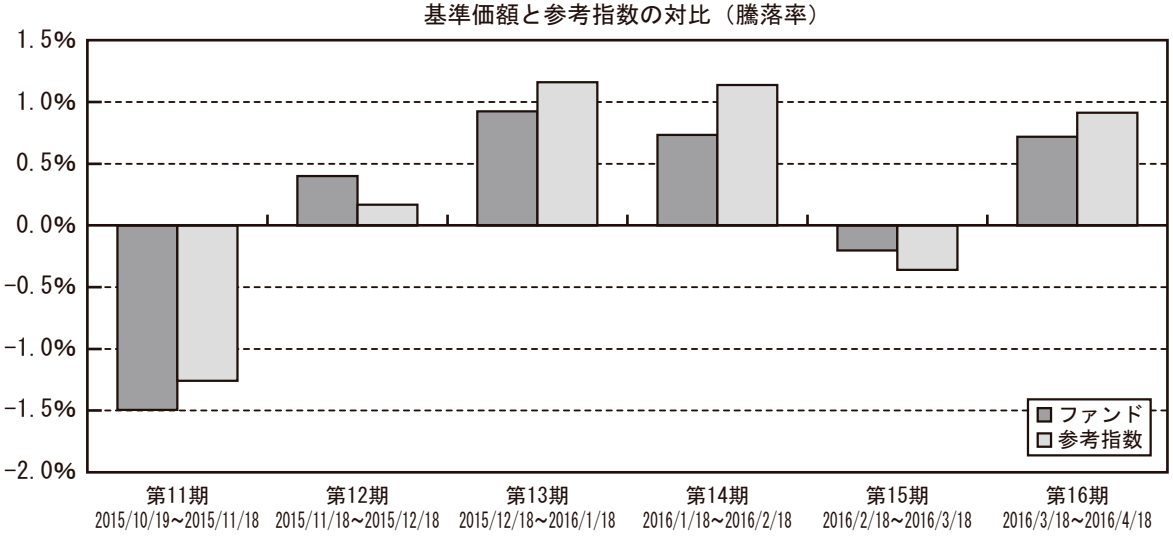
作成期末（2016年４月18日）

国債	58.8%
ＭＢＳ	41.2%

（注）比率は現物債券評価額に対する割合です。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

（第11期～第16期：2015/10/20～2016/４/18）



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。上記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
・参考指数はシティ米国債インデックス（円ヘッジ・円ベース）です。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきました。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項目		第11期 2015年10月20日～ 2015年11月18日	第12期 2015年11月19日～ 2015年12月18日	第13期 2015年12月19日～ 2016年１月18日	第14期 2016年１月19日～ 2016年２月18日	第15期 2016年２月19日～ 2016年３月18日	第16期 2016年３月19日～ 2016年４月18日
当期分配金 （対基準価額比率）		10 0.103%	10 0.102%	10 0.102%	10 0.101%	10 0.101%	10 0.101%
	当期の収益	5	10	10	10	6	10
	当期の収益以外	4	－	－	－	3	－
翌期繰越分配対象額		115	118	123	128	125	130

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

＜三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）＞

◎今後の運用方針

・米国高格付債券マザーファンド受益証券（以下、マザーファンド）の組入比率を高位に保ち、マザーファンドのポートフォリオの構成に近づけた状態を維持する方針です。

・為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

＜米国高格付債券マザーファンド＞

◎運用環境の見通し

・米国長期金利は、もみ合う展開が想定されます。雇用の改善基調が続く中、個人消費中心に米国経済は当面底堅く推移するものと考えます。一方で、新興国を中心とした海外の景気減速懸念が続く見通しであることや、国内のインフレ動向が低位で落ち着いていることなどから、長期金利はもみ合う展開を想定します。

◎今後の運用方針

・組入比率
安定した利子収入の確保をめざし、引き続き高位組み入れを維持する方針です。

・種別構成
ファンドの利回り向上の観点から、ＭＢＳの組入比率を参考指数比多めとする方針です。

・デュレーション
米国の今後の金融政策、グローバルな景気動向などを睨みながら、機動的に操作する方針です。

○１万口当たりの費用明細

（2015年10月20日～2016年４月18日）

項目	第11期～第16期 金額	第11期～第16期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	58	0.591	(a)信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率×（作成期中の日数÷年間日数）
（投信会社）	(28)	(0.285)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(28)	(0.285)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.021)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	1	0.011	(b)その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.008)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	59	0.602	
作成期中の平均基準価額は、9,826円です。			

（注）作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）消費税は報告日の税率を採用しています。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

（2015年10月20日～2016年４月18日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	第11期～第16期 設定 口数	設定 金額	解約 口数	解約 金額
	千口	千円	千口	千円
米国高格付債券マザーファンド	96,867	95,000	77,945	80,400

○利害関係人との取引状況等

（2015年10月20日～2016年４月18日）

利害関係人との取引状況

＜三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）＞

区分	第11期～第16期					
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
為替先物取引	7,697	5,485	71.3	7,735	5,502	71.1

＜米国高格付債券マザーファンド＞

区分	第11期～第16期					
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
為替直物取引	86	55	64.0	307	180	58.6

平均保有割合　45.9%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京ＵＦＪ銀行、三菱ＵＦＪ信託銀行です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

作成期首残高(元本)	当作成期設定元本	当作成期解約元本	作成期末残高(元本)	取引の理由
百万円	百万円	百万円	百万円	
990	－	－	990	当初設定時における取得

○組入資産の明細

（2016年４月18日現在）

親投資信託残高

銘柄	第10期末	第16期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
米国高格付債券マザーファンド	1,145,359	1,164,281	1,095,123

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

○投資信託財産の構成

（2016年４月18日現在）

項　　目	第16期末	
	評　価　額	比　　率
	千円	%
米国高格付債券マザーファンド	1,095,123	95.7
コール・ローン等、その他	49,419	4.3
投資信託財産総額	1,144,542	100.0

（注）米国高格付債券マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産（2,225,784千円）の投資信託財産総額（3,148,212千円）に対する比率は70.7%です。

（注）外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

１アメリカドル＝108.01円			

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項　　目	第11期末	第12期末	第13期末	第14期末	第15期末	第16期末
	2015年11月18日現在	2015年12月18日現在	2016年１月18日現在	2016年２月18日現在	2016年３月18日現在	2016年４月18日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	2,281,866,296	2,235,094,416	2,224,633,928	2,251,178,370	2,206,350,595	2,225,121,918
コール・ローン等	37,082,048	17,517,783	26,372,113	58,090,773	30,260,054	4,280,861
米国高格付債券マザーファンド(評価額)	1,145,809,776	1,122,488,494	1,106,565,919	1,113,213,394	1,086,028,696	1,095,123,046
未収入金	1,098,974,412	1,095,088,112	1,091,695,856	1,079,874,203	1,090,061,845	1,125,718,011
未収利息	60	27	40	－	－	－
(B) 負債	1,125,537,267	1,095,711,185	1,074,679,135	1,106,104,875	1,069,368,874	1,082,885,108
未払金	1,123,209,699	1,093,416,979	1,072,356,670	1,094,169,495	1,067,133,860	1,080,579,500
未払収益分配金	1,188,507	1,167,618	1,168,861	1,156,626	1,151,925	1,150,152
未払解約金	－	－	－	9,610,541	－	－
未払信託報酬	1,134,740	1,122,315	1,149,225	1,163,780	1,078,980	1,151,064
未払利息	－	－	－	－	－	6
その他未払費用	4,321	4,273	4,379	4,433	4,109	4,386
(C) 純資産総額（Ａ－Ｂ）	1,156,329,029	1,139,383,231	1,149,954,793	1,145,073,495	1,136,981,721	1,142,236,810
元本	1,188,507,035	1,167,618,982	1,168,861,685	1,156,626,826	1,151,925,151	1,150,152,400
次期繰越損益金	△ 32,178,006	△ 28,235,751	△ 18,906,892	△ 11,553,331	△ 14,943,430	△ 7,915,590
(D) 受益権総口数	1,188,507,035口	1,167,618,982口	1,168,861,685口	1,156,626,826口	1,151,925,151口	1,150,152,400口
１万口当たり基準価額（C／D）	9,729円	9,758円	9,838円	9,900円	9,870円	9,931円

○損益の状況

項　　目	第11期 2015年10月20日～ 2015年11月18日	第12期 2015年11月19日～ 2015年12月18日	第13期 2015年12月19日～ 2016年１月18日	第14期 2016年１月19日～ 2016年２月18日	第15期 2016年２月19日～ 2016年３月18日	第16期 2016年３月19日～ 2016年４月18日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	**1,771**	**1,915**	**1,251**	**1,302**	**68**	**△ 6**
受取利息	1,771	1,915	1,251	1,302	68	－
支払利息	－	－	－	－	－	△ 6
(B) 有価証券売買損益	**△16,427,219**	**5,678,393**	**11,693,595**	**9,475,131**	**△ 1,222,699**	**9,309,603**
売買益	21,770,237	25,979,165	49,287,294	62,746,678	37,755,356	53,166,718
売買損	△38,197,456	△20,300,772	△37,593,699	△53,271,547	△38,978,055	△43,857,115
(C) 信託報酬等	**△ 1,139,061**	**△ 1,137,388**	**△ 1,153,604**	**△ 1,168,213**	**△ 1,083,089**	**△ 1,155,450**
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	**△17,564,509**	**4,542,920**	**10,541,242**	**8,308,220**	**△ 2,305,720**	**8,154,147**
(E) 前期繰越損益金	**△15,032,281**	**△33,171,337**	**△29,681,098**	**△20,063,896**	**△12,803,112**	**△16,232,069**
(F) 追加信託差損益金	**1,607,291**	**1,560,284**	**1,401,825**	**1,358,971**	**1,317,327**	**1,312,484**
（配当等相当額）	(1,954,219)	(1,930,877)	(1,992,211)	(1,994,951)	(2,044,854)	(2,047,681)
（売買損益相当額）	(△ 346,928)	(△ 370,593)	(△ 590,386)	(△ 635,980)	(△ 727,527)	(△ 735,197)
(G) 計（D＋E＋F）	**△30,989,499**	**△27,068,133**	**△17,738,031**	**△10,396,705**	**△13,791,505**	**△ 6,765,438**
(H) 収益分配金	**△ 1,188,507**	**△ 1,167,618**	**△ 1,168,861**	**△ 1,156,626**	**△ 1,151,925**	**△ 1,150,152**
次期繰越損益金（G＋H）	**△32,178,006**	**△28,235,751**	**△18,906,892**	**△11,553,331**	**△14,943,430**	**△ 7,915,590**
追加信託差損益金	1,607,291	1,560,284	1,401,825	1,358,971	1,317,327	1,312,484
（配当等相当額）	(1,958,225)	(1,931,511)	(1,996,108)	(1,996,315)	(2,048,032)	(2,047,902)
（売買損益相当額）	(△ 350,934)	(△ 371,227)	(△ 594,283)	(△ 637,344)	(△ 730,705)	(△ 735,418)
分配準備積立金	11,818,091	11,915,584	12,434,222	12,901,742	12,433,920	13,006,476
繰越損益金	△45,603,388	△41,711,619	△32,742,939	△25,814,044	△28,694,677	△22,234,550

（注）**(B)有価証券売買損益**は各期末の評価換えによるものを含みます。
（注）**(C)信託報酬等**には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
（注）**(F)追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

＜注記事項＞
①作成期首（前作成期末）元本額　1,198,113,054円
　作成期中追加設定元本額　20,717,766円
　作成期中一部解約元本額　68,678,420円
　また、１口当たり純資産額は、作成期末0.9931円です。
②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は7,915,590円です。
③分配金の計算過程

項　　目	2015年10月20日～ 2015年11月18日	2015年11月19日～ 2015年12月18日	2015年12月19日～ 2016年１月18日	2016年１月19日～ 2016年２月18日	2016年２月19日～ 2016年３月18日	2016年３月19日～ 2016年４月18日
費用控除後の配当等収益額	645,518円	1,479,877円	1,733,462円	1,774,041円	793,201円	1,744,642円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円	－円	－円	－円	－円	－円
収益調整金額	1,958,225円	1,931,511円	1,996,108円	1,996,315円	2,048,032円	2,047,902円
分配準備積立金額	12,361,080円	11,603,325円	11,869,621円	12,284,327円	12,792,644円	12,411,986円
当ファンドの分配対象収益額	14,964,823円	15,014,713円	15,599,191円	16,054,683円	15,633,877円	16,204,530円
１万口当たり収益分配対象額	125円	128円	133円	138円	135円	140円
１万口当たり分配金額	10円	10円	10円	10円	10円	10円
収益分配金金額	1,188,507円	1,167,618円	1,168,861円	1,156,626円	1,151,925円	1,150,152円

○分配金のお知らせ

	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期
１万口当たり分配金（税込み）	10円	10円	10円	10円	10円	10円

◆分配金は各決算日から起算して５営業日までにお支払いを開始しております。
◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
◆課税上の取り扱い

・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315％（所得税15％、復興特別所得税0.315％、地方税５％）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。
※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。
※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

＊三菱ＵＦＪ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（http://www.am.mufg.jp/）をご覧ください。

［お知らせ］

2014年１月１日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15％に2.1％の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315％（所得税15％、復興特別所得税0.315％、地方税５％（法人受益者は15.315％の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

米国高格付債券マザーファンド

《第３期》決算日2016年４月18日

［計算期間：2015年10月20日～2016年４月18日］

「米国高格付債券マザーファンド」は、４月18日に第３期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第３期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	主として米国国債、連邦政府抵当金庫（ジニーメイ）の保証が付されている米国不動産担保証券、およびその他これらと同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券（米国政府機関債および国際機関債ならびに米国不動産担保証券をいいます。）に投資を行います。金利や物価の動向、経済情勢や投資環境等を勘案してポートフォリオを構築します。デュレーション調整等のため、先物取引等を利用し債券の実質投資比率が100%を超える場合があります。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要運用対象	米国国債および米国国債と同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		（参考指数）シティ米国債インデックス（円ベース）		債券組入比率	債券先物比率	純資産総額
		期中騰落率		期中騰落率			
（設定日）	円	%		%	%	%	百万円
2014年12月11日	10,000	－	372.66	－	－	－	970
１期(2015年４月20日)	10,190	1.9	379.62	1.9	97.6	－	3,132
２期(2015年10月19日)	10,151	△0.4	379.91	0.1	98.0	－	2,630
３期(2016年４月18日)	9,406	△7.3	354.34	△6.7	96.3	－	2,234

（注）設定日の基準価額は、設定時の価額です。
（注）基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。
（注）シティ米国債インデックス（円ベース）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、米国の国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。
（注）外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。
（注）「債券先物比率」は買建比率－売建比率。
（注）設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		（参考指数）シティ米国債インデックス（円ベース）		債券組入比率	債券先物比率
		騰落率		騰落率		
（期首）	円	%		%	%	%
2015年10月19日	10,151	－	379.91	－	98.0	－
10月末	10,195	0.4	383.40	0.9	98.2	－
11月末	10,331	1.8	387.26	1.9	95.9	－
12月末	10,128	△0.2	378.79	△0.3	94.7	－
2016年１月末	10,356	2.0	380.60	0.2	95.1	－
２月末	9,839	△3.1	369.25	△2.8	97.8	－
３月末	9,751	△3.9	364.58	△4.0	96.9	－
（期末）						
2016年４月18日	9,406	△7.3	354.34	△6.7	96.3	－

（注）騰落率は期首比。
（注）「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

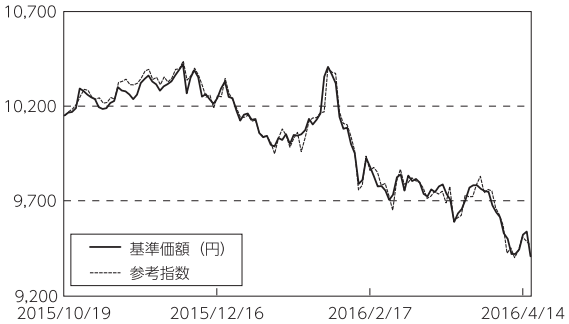
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ7.3%の下落となりました。

基準価額の推移



（注）参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●投資環境について

◎債券市況

・2015年12月下旬にかけては、12月中旬に開催されたＦＯＭＣ（米連邦公開市場委員会）で利上げが決定されたことなどから米国長期金利は中短期ゾーン主導で上昇（債券価格は下落）しました。その後、2016年１月以降は、世界的に株式市況が下落したことや３月に開催されたＦＯＭＣにおいて、今後の政策金利引き上げを含む金融正常化を慎重に進める方針が示唆されたことなどから長期金利は低下しました。

◎為替市況

・2016年２月中旬にかけて世界的に株式市況が下落する中で、円が主要通貨に対して買われる展開となったことや、３月に開催されたＦＯＭＣをうけて、米国の金融正常化のペースが緩やかになるとの観測が高まったことなどから米ドルは円に対して下落（円高）しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて
・当ファンドは、米国国債および米国国債と同等の信用力を有すると判断される米ドル建て債券を主要投資対象とし、安定した利子収入の確保と信託財産の着実な成長をめざし、運用を行いました。

◎組入比率
・期を通じて高位組み入れを維持しました。

◎種別構成
・期を通じて、ＭＢＳ（不動産担保証券）と国債を組み合わせて運用を行い、ファンドの利回り向上を狙い、国債に対するスプレッド（利回り格差）の厚いＭＢＳの組入比率を参考指数比多めとし、概ね40%程度を維持しました。なお、組み入れているＭＢＳは全て連邦政府抵当金庫（ジニーメイ）の保証が付されている米国不動産担保証券です。

◎デュレーション（平均回収期間や金利感応度）
・新興国を中心とした海外の景気減速懸念や、国内のインフレ動向が低位で落ち着いていることなどから、政策金利の引き上げを含む金融正常化の道のりに関しては不透明感が残り、それが金利上昇の抑制要因となると判断し、デュレーションは長めを基本に調整しましたが、2016年１月の金利が低下した局面で中立に変更し、期末まで維持しました。
・前記の運用の結果、米国長期金利が低下したことなどはプラス要因となりましたが、米ドルが円に対して下落したことなどによるマイナス要因が上回り、基準価額は下落しました。

○今後の運用方針
◎運用環境の見通し
・米国長期金利は、もみ合う展開が想定されます。雇用の改善基調が続く中、個人消費中心に米国経済は当面底堅く推移するものと考えます。一方で、新興国を中心とした海外の景気減速懸念が続く見通しであることや、国内のインフレ動向が低位で落ち着いていることなどから、長期金利はもみ合う展開を想定します。

◎今後の運用方針
・組入比率
安定した利子収入の確保をめざし、引き続き高位組み入れを維持する方針です。
・種別構成
ファンドの利回り向上の観点から、ＭＢＳの組入比率を参考指数比多めとする方針です。
・デュレーション
米国の今後の金融政策、グローバルな景気動向などを睨みながら、機動的に操作する方針です。

○１万口当たりの費用明細

(2015年10月20日～2016年４月18日)

項目	当期 金額	当期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) その他費用	1	0.008	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.008)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	1	0.008	
期中の平均基準価額は、10,100円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年10月20日～2016年４月18日)

公社債

			買付額	売付額
			千アメリカドル	千アメリカドル
外国	アメリカ	国債証券	15,653	17,082
		特殊債券	25,154	25,209
				(　445)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)
(注) (　)内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2015年10月20日～2016年４月18日)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
為替直物取引	86	55	64.0	307	180	58.6

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京ＵＦＪ銀行、三菱ＵＦＪ信託銀行です。

○組入資産の明細

(2016年４月18日現在)

外国公社債

(A)外国(外貨建)公社債　種類別開示

区分	当期末							
	額面金額	評価額		組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			５年以上	２年以上	２年未満
	千アメリカドル	千アメリカドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	18,913	19,914	2,150,960	96.3	－	76.9	1.0	18.4
合計	18,913	19,914	2,150,960	96.3	－	76.9	1.0	18.4

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)外国(外貨建)公社債　銘柄別開示

銘柄			当期末				
			利率	額面金額	評価額		償還年月日
					外貨建金額	邦貨換算金額	
アメリカ			%	千アメリカドル	千アメリカドル	千円	
	国債証券	1.375 T-NOTE 200331	1.375	200	202	21,846	2020/３/31
		2 T-NOTE 220215	2.0	1,350	1,398	151,065	2022/２/15
		2.5 T-NOTE 240515	2.5	2,400	2,559	276,478	2024/５/15
		3 T-BOND 441115	3.0	3,430	3,747	404,714	2044/11/15
		3.125 T-NOTE 161031	3.125	3,750	3,804	410,907	2016/10/31
	特殊債券	2.5 G2 MA0623 421220	2.5	1,702	1,728	186,642	2042/12/20
		3.5 G2SF TBA NM 460501	3.5	4,000	4,226	456,463	2046/５/１
		4 G2 MA2522 450120	4.0	685	733	79,197	2045/１/20
		4.5 G2 4598 391220	4.5	685	745	80,488	2039/12/20
		4.5 G2 4854 401120	4.5	708	769	83,157	2040/11/20
合計						2,150,960	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2016年４月18日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	2,150,960	68.3
コール・ローン等、その他	997,252	31.7
投資信託財産総額	3,148,212	100.0

(注) 期末における外貨建純資産（2,225,784千円）の投資信託財産総額（3,148,212千円）に対する比率は70.7%です。
(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

１アメリカドル＝108.01円			

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年４月18日現在)

項　　目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,148,212,652
コール・ローン等	516,291,363
公社債(評価額)	2,150,960,581
未収入金	465,169,940
未収利息	9,771,993
前払費用	6,018,775
(B) 負債	913,472,178
未払金	910,321,781
未払解約金	3,150,380
未払利息	17
(C) 純資産総額(Ａ－Ｂ)	2,234,740,474
元本	2,375,975,981
次期繰越損益金	△ 141,235,507
(D) 受益権総口数	2,375,975,981口
１万口当たり基準価額(Ｃ／Ｄ)	9,406円

＜注記事項＞

①期首元本額　2,591,365,971円
　期中追加設定元本額　154,807,265円
　期中一部解約元本額　370,197,255円
　また、１口当たり純資産額は、期末0.9406円です。

②期末における元本の内訳（当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額）
　三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）　1,164,281,359円
　三菱ＵＦＪ 米国高格付債券ファンド＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）　1,211,694,622円
　合計　2,375,975,981円

③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は141,235,507円です。

○損益の状況 (2015年10月20日～2016年４月18日)

項　　目	当　　期
	円
(A) 配当等収益	23,152,036
受取利息	23,152,053
支払利息	△ 17
(B) 有価証券売買損益	△198,192,323
売買益	50,241,692
売買損	△248,434,015
(C) 保管費用等	△ 203,669
(D) 当期損益金(Ａ＋Ｂ＋Ｃ)	△175,243,956
(E) 前期繰越損益金	39,150,282
(F) 追加信託差損益金	△ 757,915
(G) 解約差損益金	△ 4,383,918
(H) 計(Ｄ＋Ｅ＋Ｆ＋Ｇ)	△141,235,507
次期繰越損益金(Ｈ)	△141,235,507

(注) (B)**有価証券売買損益**は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) (F)**追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) (G)**解約差損益金**とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。